



ふくしま夢っうしん

CONTENTS

- 特集
地域おこし協力隊 …2
- ふくしまの魅力人
合同会社La Unión
伊藤 篤史さん …6
- インフォメーション
ふくしまの夏祭り… 8

特集

さまざまな資源と人をつなぐ
地域おこし協力隊に訊く

地域おこし協力隊は、人口減少や高齢化が進む地方に移住して、おおむね1～3年の期間、さまざまな地域協力活動に従事する取り組みです。福島市では、飯坂・飯野・吾妻・土湯温泉町・大波・松川地区で活躍しています。夏号では、協力隊の3人に、移り住んで感じた福島市の魅力や、今取り組んでいること、今後の目標などを伺いました。



古民家Café imocaで地域おこし協力隊の皆さんに福島市の魅力や今後の目標についてお話を伺いました。



UFOや宇宙人などのコンテンツを活用したまちづくり
近野 哲さん
福島市飯坂町出身。化学メーカーに40年間勤務し東京、大阪のオフィスで営業、人事、マーケティングなどを担当。2022年12月から福島市飯野地区地域おこし協力隊に（2年目）。



X (旧Twitter)



松川町の朝市の運営と古民家の再生
南雲 まりなさん
長野県栄村出身。新潟県内の大学を卒業後、千葉県内の建設会社に1年半、派遣会社の事務職として1年半勤務。2024年4月から福島市松川地区地域おこし協力隊に（1年目）。



Instagram



大波地区内外の交流拠点になる本気のカフェ作っぺ
大澤 隼人さん
埼玉県川越市出身。東京都内に住まいを構え、飲食・宿泊業を全国的規模で展開する企業に約20年勤務。2022年12月から福島市大波地区地域おこし協力隊に（2年目）。



古民家Café imoca ホームページ



古民家Café imoca Instagram

応募のきっかけ

大澤 妻と「自然豊かなところで暮らしたいね」という話をしていて、移住スカウトサービス「SMOUT」で、地域おこし協力隊の募集を知りました。長く飲食関係の仕事をしてきた経験を生かして地域貢献したいという気持ちが強く、応募を決めました。

南雲 大学では建築を専攻していて、地方のまちづくりに関わりたいと思っていました。古民家の改修に興味があったのと、地域の皆さんの熱い思いに突き動かされました。

移住して感じたことや生活の変化

近野 定年退職を迎え、再雇用などいろいろ選択肢はあったのですが、せっかくなのでこれまでに経験したことがない仕事をしてみたいと思っただけが一つと、できれば故郷に貢献したいという気持ちがありました。

大澤 大波地区に住んで感じるのは、皆さん結構シャイなんですよ。仲間思いの熱い人たちなのに控えめ。でも困った時にはすぐ駆けつけてくれます。何でもできる人がいて、「すごいな！田舎って」みたい

な感じですね。それと、何回か福島に来て移住を決めた理由の一つでもあるんですが、景色が最高です。特に日の出がメッチャきれいな。朝6時頃に、外でコーヒーを飲みながら景色を眺めています。

南雲 4月から松川地区で暮らし始めました。トラクターや軽トラックが行き交う田園風景と、地元の風景が重なって温かい気持ちになります。「クマガイソウの里まつり」のお手伝いでは、スタッフみんなで食べるまかないがおいしくて、久しぶりに給食の時間のような楽しさを味わいました。直売所や道の駅を利用して「食」も楽しむようになりました。

活動する中で印象に残っている出来事

大澤 着任して3カ月後には、「古民家Café imoca」をオープンしなくてはならなかったのですが、とにかく大変でした。でも、困っていると地域の人がスパーマンのように飛んで来てくれて。そんな人たちは、これまで近くにいなかったのが感動



古民家Café imocaで日々レシポ開発に取り組む大澤さん

※1 松川地区にある全国でも稀な絶滅危惧種・クマガイソウが自生する群生地が、5月上旬のまつり期間中に限定公開される。

隊員の福島お気に入りスポット



大澤隼人さんのお気に入り

古民家Café imocaから望む 大波地区の里山の風景

朝、外に出て眺める田園風景が最高です。小高い山の斜面に春は梅やコブシ、山桜が咲きます。夏は緑。田んぼも里山も緑に染まります。秋は紅葉、冬は銀世界が楽しめます。

南雲まりなさんのお気に入り

気持ちの良い直線道路 県道52号土湯温泉線

東北自動車道松川スマートICから土湯温泉方面へ向かう途中、松川町沼袋～水原の間を運転する時のお楽しみが、両サイドが田んぼの直線道路です。見渡す限り広い空と緑の田んぼが続きます。



撮影：市民フォトグラファー 半沢剛司さん

近野哲さんのお気に入り

千貫森から見渡す 絶景のパノラマ

飯野町のシンボル千貫森は、晴れていれば遥か彼方に吾妻連峰や安達太良連峰が見える眺望抜群の山です。UFO物産館のテラス、千貫森登山口、頂上のUFOコンタクトデッキなど、ビューポイントがたくさんあります。ぜひお出かけください。

地域おこし
協力隊
募集中!

地域おこし協力隊募集のお知らせ

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域などの条件不利地域に移住（住民票を異動）し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PRなどの地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。

募集地区：飯坂地区・西地区・立子山地区
募集人数：各1人
募集期間：2024年7月31日まで
福島市地域共創課 TEL 024-525-3731

詳しくはこちら



松川地区の朝市で地域の人と交流を深める南雲さん

今後の目標

大澤 直近では、カフェの北側にあ
るスペースの運用です。プランが2
つあって、1つ目は地域の人がコ
ミュニケーションを取る場所として
「大波の日」を決めて、みんなが集
まれる場所にしたいなと思っています
す。2つ目はワークショップやヨガ
教室などを開催して、関係人口が増

姿は、本当にかっこいいなと思いま
す。
近野 飯野地区は、30年前からUF
Oを地域おこしに使うというすぐく
ユニークな町で、そのお手伝いを
できたことが、自分の人生でアクセ
ントになっています。都会では60歳
を超えると現役引退のような風潮が
あるのですが、田舎の人たちは皆さ
ん若い。改めて活力をもらっていま
す。人の出入りがあまりなく、出て
行くばかりでなかなか入ってこない
ので、「よそ者の目線」を忘れないで
過ごしていると、飯野地区の人たち
の何気ない日常が実はすごいとい
うことに気がきます。それを言葉にす
ると、なんとなく地域の方のプライ
ドにつながっていくのかなと感じて
います。

えていくようにしたいですね。最終
的に大波に住む人を増やすと
と、移住してくる人の住む家が少な
いので、そこもなんとかしたい。あ
とは、地域の若者たちです。みんな
メッチャ良い子なんですけど、控え
目なんですよ。もっと声を聞きたい
と思います。
南雲 着任して間もないので、古民
家の改修もまだノータッチという状
況ですが、プランとして「地域の皆
さんが作ったお米や野菜、お惣菜を
販売する場所にできないか」と
か、「一角を若い人や何か始めたい
人の創業支援をする空間にできない
か」など考えています。まだ地域の
皆さんが古民家をどうしたいのかを
聞けていないので、いろいろな思い
をしっかりと聞き取って、地域の人
にとって良い場所にできたらと思っ
ています。
近野 1年半半生活しながら維持して
きた「よそ者の目線」から見えてき
たものを、整理する時期に入ったと
思っています。南雲さんもおっしゃ
いました、やはり地域の皆さんが
自分の故郷をどうするのか、どうし
たいのかということが重要だと思
います。今年、飯野町ではつるし雛ま
つりを、花やしき公園の花見シーズ
ンに合わせて開催しました。そうす



UFOの里の地酒づくりプロジェクトで酒米の田植えをする近野さん

ることで集客の負担を軽減し、公園
からまちなかへと回遊していただ
くようなスタイルにしました。受け継
がれてきたイベントも昔のようには
いきません。まさに英断です。ス
マートになれば次世代も続けてい
ますよね。残りの1年半は、住んで
いる人が自分たちの町の魅力を再発
見して、SNSなどを使って自分た
ちで外に向けて発信できるようにお
手伝いをしたいと思っています。

地域おこし協力隊の皆さんの活動
をもっと知りたい時は、ホームペ
ジやSNSでチェックできます。ま
た、福島市にお出かけの際は、3人
の「お気に入りスポット」もぜひ訪
ねてみてください。

※2 松川地区にあるしだれ桜。道路沿い約500メートルにわたって桜並木が続き、見事な桜のトンネルを楽しめる。
※3 飯野地区にあるハナモモやレンギョウなど約7,000本の花々を地域の住民が植栽し、鮮やかに彩られた公園。

魅

力人

みりよくびと

Atsushi Ito

大学生時代、東京と福島市飯野町の実家を自転車で行ったことを機に、その魅力にハマったという伊藤篤史さんは、世界を旅したサイクリストです。「自転車の旅で見えない景色がある」と、在学中にアメリカ合衆国横断を成功させたほか、これまでに約71カ国のべ約130カ国を旅してきました。2021年、福島市内に拠点を構え、現在は宿泊施設「ラ・ユニオン」と「エル・アマリージョ」を切り盛りしています。その伊藤さんに、福島盆地の魅力、宿に込めた思いなどをお聞きしました。



まちの移り変わりを見届けてきた建物だからこそ持っている味わいのある床など、残せるものはできる限り残した趣のある店内



合同会社La Unión (ラ・ユニオン) 代表社員

伊藤 篤史 さん

1984年、福島市飯野町生まれ。高校卒業後、大学進学のため上京。卒業後、2007年(株)良品計画に就職(～2011年)。その後「無印良品」や「AB-ROAD」(2021年3月サービス終了)などのwebライターをしながら自転車で世界各国を巡る。2021年、福島市内の古い事務所ビルをリノベーションしたカフェとゲストハウス「La Unión」をオープン。2022年夏、コロナ禍により気軽に海外へ渡航できない状況が続く中、福島市写真美術館で開催された「目的のない旅展 in 福島」でサイクリストの一人として、コロナ禍前の世界を捉えた写真にまつわる旅の思い出を語る。

世界中を巡ったサイクリストが デザインする盆地の暮らし、 人とのつながりを 謳歌する宿と旅



新館「エル・アマリージョ」のキャビンルーム客室。他に一度に6人が泊まれる大部屋があります。

古いビルをリノベーション カフェ&ゲストハウスを開業

3年前、福島市大町に誕生した「ラ・ユニオン (La Unión)」は、「ドミトリイ(相部屋タイプ)」とプライベートルーム、カフェラウンジがあり、世界を旅した伊藤さんがセレクトした料理やドリンクも楽しめます。18年間離れていた福島市に戻り、宿泊施設を立ち上げようと思った理由を尋ねると、「運や縁などの要素が多分にありました」と話す伊藤さん。コロナ禍のタイミングでのオープンを当初から決めていたそうです。「一番底の状態です。軌道に乗っていただければ、あとは良くなる一方と考えたんです。とは言え困難はつきもの。でも結果的に市内のど真ん中に開業できました」。それについても、なぜ宿泊業だったのでしょうか。「自転車の旅での気づきが動機になっています。僕の中の良いまちの条件

に、良い宿があるというのがあって。長く滞在できるまちには、良い宿があるんです。福島を良いまちにしたいと思って始めました」。

福島盆地の暮らしづくり体験を インバウンドのコンテンツに

事業を展開していく中で、伊藤さんは2つのこだわりを持っていきます。1つが「ラ・ユニオン」を拠点に、市内を大きなテーマパークに見立てて食事や温泉、買い物などを楽しんでもらうことです。「僕が作りたいたい世界観は、福島盆地の中での体験です。盆地の中で育まれてきた暮らしからにじみ出るおもてなしの輪に、きちんと対価を発生させながら、旅人が



福島市内を体験する方法の一つとして、電動アシスト付自転車の貸し出しも行っていきます。中には磐梯吾妻スカイラインの景勝地、標高1600mの浄土平を目指す強者も

入るきっかけを作ること。それが地元人でもあり、福島を離れていたよそ者でもある僕の役割だと思っています」。今年5月にオープンした新館「エル・アマリージョ (El Amalijo)」には、より長期で福島の暮らしを体験したいという旅人が、市内のスーパーマーケットなどで買った食材を調理できるようにキッチンも付けました。

情報があふれる現代だからこそ 偶然を楽しむ旅もいい

海外からの旅人が多く行き交う宿には、伊藤さんが旅の途中で出会っ

「見方を変えれば、まだまだ多様な世界が広がっていて、面白いことができます。面白いかと考えています」。2つ目が「有り物」を大事にする暮らしです。「ラ・ユニオン」は、約50年にわたってまちを見続けてきたビルをセルフリノベーションした宿です。「本来の姿を取り戻した床や趣のある配電盤など、残せるものはできる限り残しました。これも、今ある自転車の部品を大切に使用したり、直したりして旅をした時に得た視点です」。

人が訪ねて来ること。「予約もしないでふらっと現れるんですよ。そういう時に限ってベッドが空いてたりする。旅の偶然を信じる力とかが蘇ってくるんですよ。退路も選択肢もない旅の途中の覚悟とかもね」。 「旅の最中って常に緊張しているの。異国でホーム・アウェイ・フロム・ホーム(もう一つの故郷)のように休める宿を提供したいと改めて思った瞬間でした」。

目下の願いは、地に足をつけて取り組んでいる事業が、自分が暮らすまちにとって良いことにつながっていくことだと話す伊藤さん。福島市にお越しの際は、自転車で盆地の暮らしを体験してみたいかがでしうか。



アルゼンチンのウシュアイア郊外にあるラバタイア湾。世界で一番南、「世界の果て」にある岬にて



ふくしまの夏祭り



詳しくは
こちら▶



第46回 ふくしま花火大会

7/27^土 19:30~20:30

信夫ヶ丘緑地、信夫ヶ丘球場

福島市の夏を彩る風物詩。大迫力の福島の大玉花火と、愛知県豊橋市の手筒花火、JRA福島競馬場協賛の音楽花火が今年も共演します。夜空を照らす約8,000発の花火を、ぜひお楽しみください。

有料観覧席

丸テーブル席	4人掛けテーブル	14,000円/テーブル
テーブル席	長テーブル(相席)	3,500円/人
S席	折り畳み式イス	3,500円/人
A席	階段	2,500円/人
B席	スタンド席(一般)	1,000円/人
	(中学生以下)	500円/人



実行委員会 (にぎわい商業課内) TEL 024-525-3720



日本一の大わらじ

第55回 福島わらじまつり

8/2^金
18:00~21:00

信夫通り・駅前通り

修祓式
絆パレード
わらじおどり
大わらじパレード
創作わらじパレード

8/3^土
18:00~21:00

信夫通り・駅前通り

絆パレード
わらじおどり
大わらじパレード
創作わらじパレード
福島わらじ綱引き

8/4^日
9:30~

羽黒神社

大わらじ奉納



長さ12m、幅1.4mの大わらじを50人の担ぎ手が担ぎ、福島の街なかを練り歩きます。また、生唄と生演奏の「わらじ音頭」に合わせて踊る「わらじおどり」も必見。会場は「ワッショイ！」の掛け声と熱気に包まれ、福島の夏を熱く盛り上げます！

有料観覧席

SS席	4人掛けテーブル	18,000円/テーブル
S席	4人掛けテーブル	14,000円/テーブル
A席	折り畳み式イス	3,000円/人
B席	折り畳み式イス	2,000円/人
C席	折り畳み式イス	1,000円/人

実行委員会 (福島商工会議所内) TEL 024-572-7118

市民フォト・ふくしま夢つうしん

2024年7月1日発行

2024年7月号 No.57



編集発行 福島市広聴広報課

〒960-8601 福島市五老内町3-1
TEL 024-525-3710 FAX 024-536-9828
E-mail: kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp

夢つうしん
バックナンバーは
市ホームページ!



福島市公式SNS



表紙紹介

大波城址のひまわり

例年8月上旬から中旬にかけて、大波地区を大きなひまわりの花が彩ります。付近には、大波地区地域おこし協力隊の大澤隼人さんが営む古民家Café imocaも。ぜひお立ち寄りください。

※次号は2024年10月発行予定です。